

つくば常民大学7月(第46回)

講師：佐野賢治氏（神奈川大学名誉教授・敦煌研究院特聘教授）

題目：「“絹の道”は仏教の道－仏教受容の民族性と民俗性」

日時：2025年7月17日（木）午後1時半～4時

場所：つくば市二の宮交流センター

※ 参加自由・要資料代

【概要】

今回はこの5月、中国敦煌で開催された第4回「絹の道と文明交流」国際会議、敦煌研究院での発表をもとに報告します。

印度で創唱された仏教は西方には展開せず「絹の道」経由で東漸、極東の日本まで伝わります。「絹の道」の東半分は仏教伝播の道ともいえますが、その間、お釈迦様からの聞書き、「如是我聞」の形をとる漢訳『仏典』を踏まえながら、その教えは、外来の仏教と在来の民俗との関係の中で取捨選択され、それぞれの民族における「仏教民俗」が形成されてきました。

日本では仏教というと葬式やお盆のイメージですが、日本仏教の性格を、1. 祖先崇拜の体系化 2. 自然の仏教化、に認め、庶民になじみのあるお地蔵さん「地蔵菩薩」に対し、地に対し天、その対偶仏、「虚空蔵菩薩」を取り上げ、仏教の日本化の様相の一面とその意味を話します。

虚空蔵菩薩の諸相



敦煌榆林窟：第25窟（中唐）
八大菩薩の一



岐阜県郡上市石徹白太子堂
平泉中尊寺・一字金輪仏と兄弟仏



山形県白鷹町大蔵寺
大鰻に乗る虚空蔵



十三仏掛け軸
最上↑極楽への導者